昨年から今年にかけて開催された飛び込み市民会議

◆飛び込み市民会議のあり方

問　「広く自由な市民の声を聞きたい」としながら、トップが事前に、私見を公表するのは、誘導だ。会場での市民1％未満の調査を、拠り所にするのはおかしい。（古厩）

答　問われて自分の思いを、正直に答えただけ。そう思うのは、古い自治体行政の考え方だ。地域エゴでない、全市的な見地で建設地を決めたい。

◆生涯体育の必要性

問　スポーツ人口の実態と目標をどう考えるか。（中村）

答　スポーツ宣言の通り、生涯体育は必要である。スポーツ人口は29.3％で、30％を目標とする。

◆幻の体育館建設計画が実在していたが、その後は

問　平成9年に中央スポーツ公園全体整備構想の中に、今回第一候補としている場所に、国体級の体育館もあり、議会に示されているが、その後の経過はどうなった。調査はしたのか。（中村）

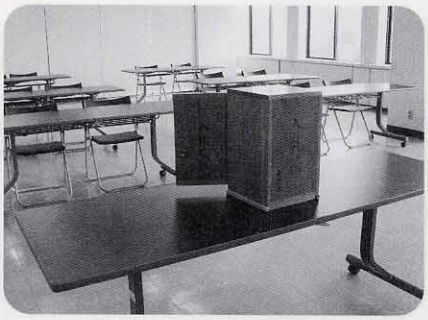
答　確かに存在したが、諸般の事情で中断してしまった。庁舎周辺整備計画の一部であり、素案の段階のため調査等は実施していない。

待機料支払いへ

◆市の入札制度改革について

問　失格基準価格を設定すべきでは。（牧野）

答　良質な工事を低価格でという要望もあるが、不良・不適格工事も懸念されるので、低入札価格調査制度により、基準値を10分の6.5から10分の7.5に引き上げた。



引き続き入札制度の研究を

問　除雪を委託している建設業者に対して、待機料を支払う考えは。（牧野）

答　除雪機械の保有経費のねん出が年々困難になっているようなので、出動時間等の基準を定めて、それに満たない部分を補てんする等の方法を検討していきたい。

問　地元業者の受注機会を確保する考えは。（牧野）

答　平成19年7月から市内に本社又は営業所等を有する建設業者のみに付与する「新客観点数」を入札参加資格条件とし、市内建設業者の受注機会の確保を図っている。

◆入札制度について

この冬出動機会が少なかった除雪機械

問　予定価格を事後公表にした理由と改善点は。（石井）

答　調査基準価格に近い低入札が集中し、適正な入札の妨げとなる可能性が生じた。各社が的確な積算を行い施工可能な価格での入札を促進するために事後公表とした。今後は状況を見ながら新客観点数の内容や低入札価格調査制度の見直しを研究していく。

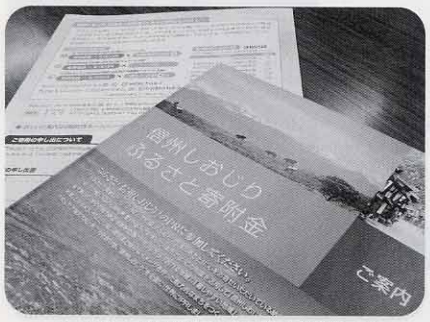
◆ふるさと寄附金の拡大

問　平成20年度の実績と21年度の拡大策は。（石井）

答　8件51万5千円の寄附があった。拡大策としては、東京等の塩尻会でパンフレットの配布を実施し、市民への周知を図るため広報しおじりで特集を組む予定である。

◆市の財政は、大丈夫か？

問　現下の不況はまだ底が見



ふるさと寄附金（ふるさと納税）の周知拡大を